

<目次>

粉乳情報	脱脂粉乳 縮まる地域間価格差	… 2-3 頁
バター情報	欧州乳脂肪相場 世界と大きな価格差	… 3-4 頁
カゼイン情報	相場、概ね横ばい	… 4 頁
チーズ情報	米国 チーズ消費量の増加	… 5 頁
ホエイ情報	米国相場 先月と傾向変わらず	… 6 頁
乳糖情報	相場上昇	… 7-8 頁
国内情報	全国生乳生産量 10ヶ月連続の前年比増	… 8-9 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
オセアニア情報	Bega 社 Koroit 工場始動	… 10-11 頁
欧州情報	雨不足ようやく解消、生乳生産に期待	… 11 頁
米国駐在員情報	米中貿易戦争激化	… 12-14 頁
出典		… 15 頁

<粉乳情報>

- 脱脂粉乳 縮まる地域間価格差 -

- 欧州 -

直近 2 ヶ月は横ばいで推移していた欧州産の脱脂粉乳の相場は、じりじりと上昇している。それでも価格は未だ製造者にとって魅力的でなく、脱脂乳は利益率の良いチーズの生産に向ける傾向がある。生産優先度が低いことに加え、季節柄生乳生産量はピーク時に比べ減少しており、7~8 月上旬まで特定の生産主要国が熱波に見舞われた。予想よりも生乳を確保できなかったこと(=十分に脱脂粉乳を製造できていないこと)が価格の上昇に影響している模様。脱脂粉乳のフレッシュ品(新規製造品)は、供給量が限られている模様にて、第 4 四半期向けも活発な引き合いが見て取れる。注目される政府介入在庫は 8 月 30 日付け、11 万 8,907 トンが放出入札に付され、3 万 1,493 トンが落札された。最低落札価格は現相場の影響を受け EUR 1,230/MT まで上昇、2018 年に入って一番高い水準となっている。

欧州産全粉乳は引き続きオセアニア産と比べ競争力はなく、主に域内消費となっており輸出は限定的。脱脂粉乳・全粉乳とも価格は、生乳生産の好調さに応じて域内でも地域差がある印象を受ける。

- オセアニア -

オセアニア産の脱脂粉乳は先月から特に大きな変化は見受けられない。製造者はどちらかというと脱脂粉乳よりも全粉乳の製造を優先しており、今後の供給量が気になるところ。全粉乳の相場は若干下げ基調。今のところ、脱脂粉乳・全粉乳共に第 4 四半期積みの供給にタイトさは見受けられないものの、今後の生乳生産量に注目が集まる。

最新の GDT の結果は下記の通り。脱脂粉乳・全粉乳共に下落。

(2018 年 8 月 21 日開催、同年 8 月 7 日比較)

脱脂粉乳: USD 1,951/MT FAS (船側渡し価格)、-1.1%

全粉乳 : USD 2,883/MT FAS (船側渡し価格)、-2.5%

- 米国 -

米国の NFDM*の価格は若干上昇。国内外問わず、直近の魅力的な価格帯に需要が集中した模様で、米国の価格指標となる CME 相場も上昇した。(その他、生乳生産量推移等は米国駐在員情報を参照)

*NFDM : Non Fat Dry Milk (たんぱく非調整脱脂粉乳)

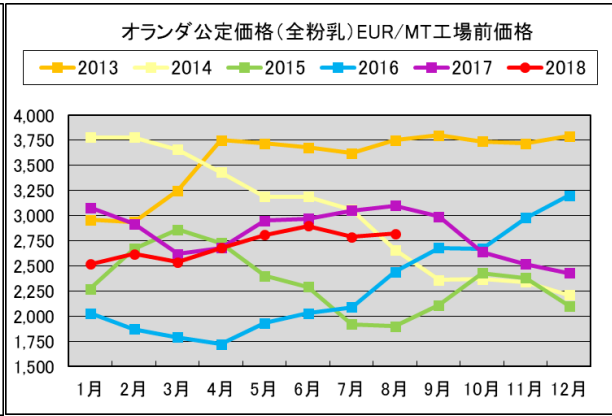
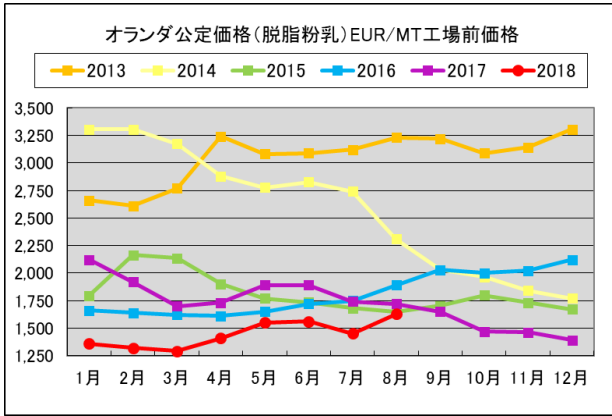
- 今後の展望 -

欧州、米国産の脱脂粉乳が上昇したことにより、オセアニアを合わせた主要 3 地域の価格差は縮まってきている。

豪州の主要生乳生産地域である Victoria 州は、現状 NSW 州や Queensland 州と比べ干ばつの影響は少ないものの、引き続きピークシーズンに向けた生乳生産推移に注視する必要がある。

欧州の天候は 8 月下旬から徐々に回復している様子で、牧草の状態等も良くなってきている。ただ既に生乳生産のピークは過ぎている為、今後各製造者が十分な乳量を確保できるかは不透明であり、急激に相場が下がる可能性は薄いかもしれない。

全粉乳についてはオセアニア産に期待。他地域の供給が限定的な中、中国を含め早めにモノを確保する動きが出てくると考えられ、買い遅れないように特に第 4 四半期については余裕を持った検討が肝要と考える。



(現在の粉乳取引価格)

EU 産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 – 2,500/MT CFR ASIAN PORT
EU 産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,600 – 4,000/MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,150 – 2,350/MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,250 – 3,450/MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,100 – 2,300/MT CFR ASIAN PORT

<清水>

<バター情報>

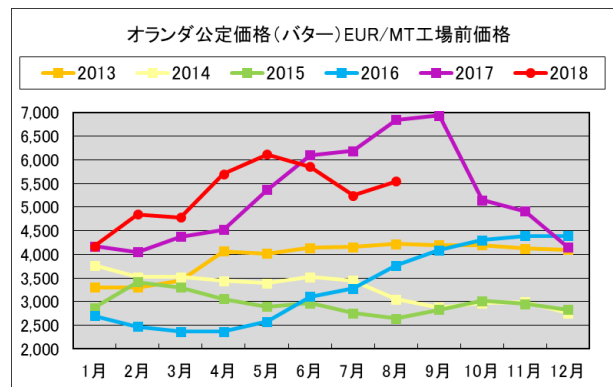
- 欧州乳脂肪相場 世界と大きな価格差 -

- 欧州 -

欧州の乳脂肪相場は8月に入り再上昇、他主要産地と価格差が再び大きく広がっている。

欧州バター生産量は1~6月累計で見ると前年比+1.4%となっているものの、6月単月では-1.8%と前年を下回った。

熱波に見舞われていた欧州であったが、8月中頃からようやく雨に恵まれ乳牛にとっては良い気候となった。ただし、既に牧草の生育期間は過ぎてしまっており、これから年末に向けて需要が一層強まっていくであろうことから、価格は高値圏に張り付くか、さらなる上昇の可能性もあると予想する。



- オセアニア -

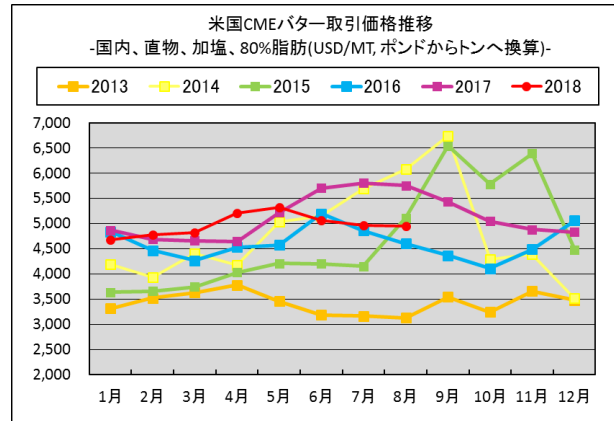
8月のGDTオークションは、1回目(2018年8月7日)の平均落札価格がバターではUSD4,802/MT FAS(船側渡し)と前回(2018年7月17日)比-3.0%、AMFではUSD5,709/MT FASと前回比+1.4%となった。2回目(2018年8月21日)の平均落札価格はバターがUSD4,392/MT FASで前回比-8.5%と続落、AMFはUSD5,321/MT FASと前回比-6.8%となった。

豪州バターの2017/2018シーズン(2017年7月~2018年6月)生産量は累計で5.9万トン、前シーズン比-8.3%と下回った。ただし、6月単月で見ると前年同月比+27.6%と大幅増の4,900トンという製造量であった。

- 米国 -

7月末時点のバター在庫量は前年同時期比+3.5%の14万4,000トン、前月から8,400トン減少した。例年8月はアイスクリーム需要が旺盛な月であるが、今年は熱波の影響でより需要が強まっており、結果、乳脂肪はアイスクリーム製造に向けられ、バター在庫が減少した。

8月のバター相場は堅調であったが、8月21日のGDTオークション結果につられ、同日以降下がった。



2018年8月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.17)

EU産バター価格	USD7,200～USD7,500/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD4,700～USD5,100/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,200～USD5,900/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,800～USD6,100/MT CFR ASIAN PORTS

<小瀬村>

<カゼイン情報>

- 相場、概ね横ばい -

カゼイン相場は一部で若干の上昇は見られるが、おおむね横ばい。

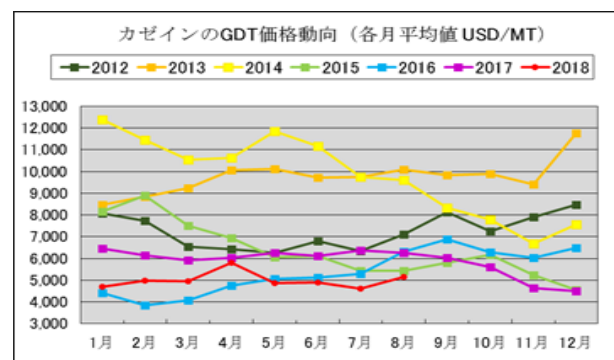
需要者の多くは既に期近で必要な数量は押さえているため、引き合いは依然落ち着いている。主要産地のNZでは季節要因により生産量は少なく取引も落ち着いているが、価格次第では年内分を確保しようという動きもある。

供給については、もうひとつの主要産地であるヨーロッパにおいて、干ばつ傾向に因る生乳生産量減の懸念から脱脂粉乳を含む粉乳価格の値上がりが見られた。その為、脱脂粉乳の生産量が増加、その分カゼイン生産量には制限がかかったが、需要も落ち着いていることから、需給バランスは保たれている。直近8月のGDTでは若干の値上がりを見せたものの、引き合いそのものが少ないため一時的と考えられる。

今後は、ニュージーランド(NZ)が搾乳シーズン入りし、集乳量も徐々に上がっていることで、カゼイン生産も増える事が予想される。一方で、EUにおいては、粉乳の生産が優先され、引き続きカゼイン生産量は限定的になると考えられる。NZの生産状況次第では相場上昇も考えられる為、今後のNZの状況を注視していきたい。

- レンネットカゼインのGDT 過去3カ月の落札価格 -

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年6月5日	USD5,015
2018年6月19日	USD4,898
2018年7月3日	USD5,089
2018年7月17日	USD4,602
2018年8月7日	USD4,971
2018年8月21日	USD5,138



<渡辺>

<チーズ情報>

- 米国 チーズ消費量の増加 -

米国では健康志向の高まりからチーズの消費量が増加している。米国民一人当たりの消費量は過去 20 年で 25%増の約 20kg/年であり、2022 年には 590 万トンのチーズが米国内で消費されると予想されている。一方で、プロセスチーズの消費量は過去 20 年で約 4kg/年から約 3kg/年に減少している。

米国ではたんぱく質摂取への関心が非常に高く、乳たんぱくが豊富でヘルシーなナチュラルチーズの需要は今後さらに増加していくものと考えられる。

- アルゼンチン チーズ輸出に積極的 -

アルゼンチンの生乳生産量が増加している。7 月は前年同月比 4.1%増の約 90 万トンで、2018 年 1~6 月の合計は前年比 7.3%増であった。天候に恵まれ乳量が増加している事が要因となっている。

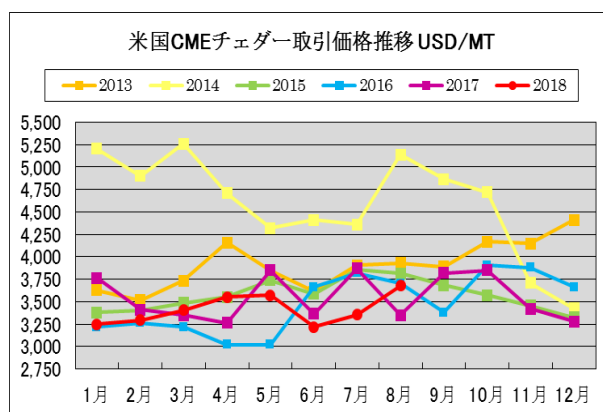
また、アルゼンチンは IMF(国際通貨基金)に追加支援を求める事を発表しており、依然として深刻な通貨安が続いている。アルゼンチンペソは対ドルで過去最安値を更新し続けており、通貨下落に歯止めがかからない。乳量増加と通貨安が重なり他産地よりも価格競争力がある状況が続く。

- 世界のチーズ生産量 増加予想 -

PM Food & Dairy Consulting 社によると、世界中のチーズの生産量は 1990 年に約 1,140 万トンであったが現在は 2,000 万トンを超えているとされており、今後は 2025 年までにさらに 25%増加し約 2,500 万トンまで増えると予想されている。欧州と米国のチーズ生産量は全世界の約 70%を占めているが、2025 年までにそのシェアは約 65%まで下がり、インド・中東・南米などの地域では増加が見込まれている。

- 米国CME相場 -

2018 年 8 月の CME ブロックチェダー スポット相場は 29 日時点で USD3,677/MT(現地工場出し価格)であった。米国駐在員情報の通り 7 月末のチーズ在庫量は前年比で増加しているが、季節的要因によって上昇した。学校給食の再開や熱波による生乳生産量の減少に加え、アイスクリーム需要の高まりによって乳脂肪がクリームに引っ張られた事が要因となっている。一方で、CME 先物相場は需要期明けの年末年始にかけて先安となっている。



<近藤>

<ホエイ情報>

- 米国相場 先月と傾向変わらず -

- ホエイパウダー -

米国相場は、先月と傾向変わらず。米国内、海外からの引き合いは堅調で、全体的に需要が供給を上回っている。スポット取引も頻繁に行われているも、需要のすべてを満たすオファーは出てきていない様子。そのような状況下で、2019年Q1以降の使用分を現時点で契約する動きも出てきており、期近での船積み分は早めの契約を心がけたい。

USDA(米国農務省)によると、2018年6月末の米国産ホエイパウダーの在庫量は、前年同月比13%減の3万3,000トン。2017年の在庫量のピークは同年9月末時点の4万9,000トンであり、同在庫量と比較すると2018年6月末の在庫量は約33%減少している。

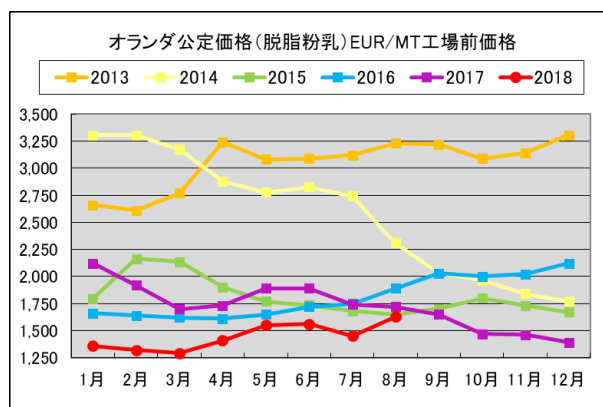
NACC(米国農務省全国農業統計局)によると、米国産ホエイパウダー2018年1月～6月の輸出量は、前年同月比22%増の12万1,000トン。同時期の国別の輸出量は、中国向けが約4万7,000トン(前年同月比3%減)、続いてフィリピン向けが約9,000トン(同比23%増)、日本向けが約7,600トン(同比69%増)、メキシコ向けが約7,500トン(同比2%増)となっている。

中国による追加関税発動により米国産ホエイパウダーには25%の追加関税が課されることとなったが、現在までに中国向けの輸出数量に大幅な変動は見られていない。しかし米国産ホエイパウダー輸出量の45%は中国向けに輸出されており、中国向けの輸出数量が減少してくれば、米国産ホエイパウダー相場に影響が出てくるであろう。

欧州産ホエイパウダー相場は、米国産ホエイパウダーに牽引される格好で上昇傾向。年初来最高値を更新中であるが、未だ前年同期比よりは低い相場となっている。EU域内含め、世界的にチーズ生産が好調でホエイ生産も順調であるが、同時に需要も堅調となっている。

- WPC34 -

米国産 WPC34 相場は横ばい傾向。育児粉乳用途等の規格の厳しい製品は、引き続き高値安定で取り引きされているが、一般規格の WPC34 に対する需要は落ちついており、ホエイパウダーと比較すると市場は落ち着いていると言えよう。



<白井>

<乳糖情報>

- 相場上昇 -

- 欧州 -

乳糖相場は、緩やかに上昇している。

欧州の1月から6月までの累計生乳生産量は昨年対比1.8%増となったものの、猛暑の影響で生産の伸びは予想より鈍い。域内外でのチーズ需要は堅調で、それに伴い生産量も好調。1月から6月までの累計生産量は昨年対比2.1%増となった。好調なチーズ生産を追い風に、原料ホエイ及び乳糖の供給も安定している。需要面では、脱脂粉乳の生産量伸びに従いたんぱく調整用途での乳糖需要が好調に推移。原料ホエイ供給も乳糖の生産も安定しているが、脱粉製造用途の消費がそれ以上に好調で、結果として相場は緩やかに上昇している状況。

域内外でのチーズ需要は依然強く、原料ホエイの安定供給は今後も続くと思われる。しかし、ホエイパウダーの方の需要が強く、相場も上がり基調と予想されているため、高たんぱくホエイ製品と乳糖の組み合わせより、ホエイパウダー生産に原料ホエイは優先的に使用されると考えられる。よって乳糖生産量の増加は考えにくい。また米国産乳糖相場上昇につられ、欧州産乳糖も引き続き価格上昇していくものと予想する。

	2017年	2018年	(%)
オランダ	4,412	3,458	-22
フランス	1,104	705	-36
ドイツ	9,947	7,115	-28
カナダ	1,988	2,256	13
米国	26,090	26,066	-0.1
豪州	0	0	-
ニュージーランド	1,894	1,833	-3
その他	1,217	995	-18
合計	46,652	42,429	-9

- 米国 -

米国産乳糖相場も上昇している。生乳生産量及びチーズ生産量は好調で、原料ホエイも潤沢な一方で、高たんぱくホエイ製品の在庫が高水準に留まっていることや、ホエイパウダーが高値で売れることから、高たんぱくホエイ製品と乳糖の組み合わせよりも、ホエイパウダーの生産が優先される傾向にあり、乳糖の生産量は減少している。7月の米国主要23都市における生乳生産量は昨年対比0.4%増、6月のチーズ生産量は昨年対比1.8%増(前月対比1.9%減)、乳糖生産量は昨年対比5.0%減(前月対比1.4%減)となっている。また、引続き乳糖需要は強く安定している。よって米国内の乳糖在庫はかなりタイトになってきている。

今後の供給面では、乳糖の生産量が減少している中で、猛暑や高い湿度の影響を受け、思うように生産が出来ていないメーカーが一部いることなど、乳糖の生産量増加は考えにくい。一方で需要面に目を向けると米国は、秋冬の製菓用途に乳糖の引合いがそろそろ始まる時期になってくる。更に、在庫がかなりタイトな状況を踏まえると今後の米国産乳糖相場は引き続き堅調と予想する。

米国の乳糖主要輸出先である中国が、乳糖にも報復関税をかけると決定したため、今後中長期的に中国向け輸出量が落ち込む可能性がある。米国外マーケットも含めた全体における乳糖需要の動向には注視していく必要がある。

- 米国からの乳糖輸出量累計(2018年6月) -

1. 中国	53,598	トン
2. ニュージーランド	23,012	トン
3. メキシコ	23,430	トン
4. 日本	21,938	トン
5. インド	12,034	トン
6. ベトナム	10,158	トン
7. シンガポール	8,852	トン
輸出量総計	210,197	トン

- 米国の乳糖生産量と在庫量(2018年6月) -

乳糖生産量	41,434トン	前年比 5.0%減
月末在庫	46,315トン	前年比 25.8%減

<柴崎>

<国内情報>

- 全国生乳生産量 10ヶ月連続の前年比増 -

- 生乳生産 -

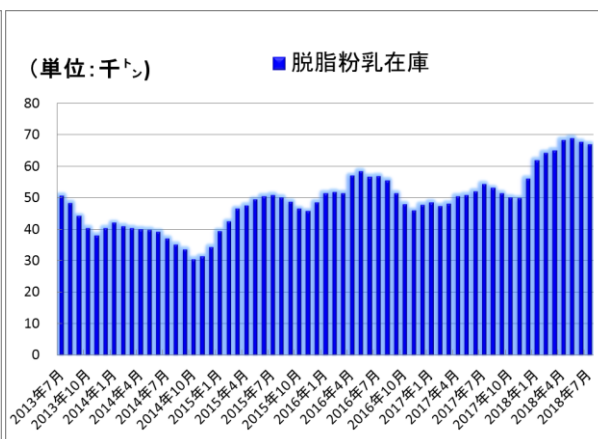
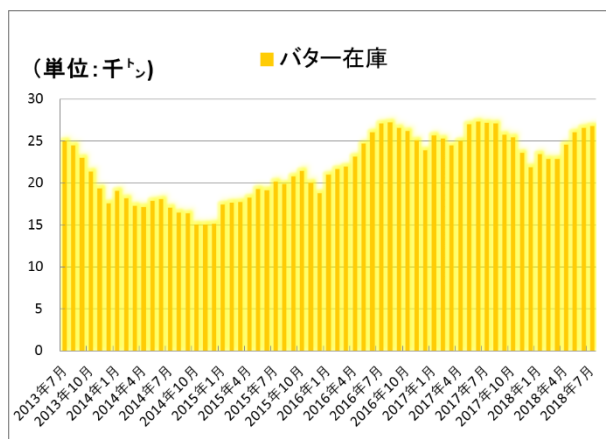
農林水産省が発表した2018年7月の全国生乳生産量は61万6,474トン。前年同月比1.0%増となり10ヶ月連続で前年を上回った。地域別では北海道が34万4,854トンで同4.1%の増となった一方で、都府県は27万1,620トンで同2.6%減、29ヶ月連続で前年対比減産。更にその都府県では、今夏の酷暑が酪農家及び乳業メーカーに大きな打撃を与えている。連日の暑さにより、乳牛の死亡数が前年比を上回る酪農家も多く、乳牛は暑熱ストレスの影響で日乳量も前年比で落ち込んでいる模様。生乳生産の急激な落ち込みにより、一部乳業メーカーでは牛乳の出荷制限を行うまでに至った。牛乳の需要は依然として堅調に推移しており、7月の牛乳等向け用途別処理量は前年同月比1.2%増となっている。最需要期を迎える9月に向けて、5万9,000トン程度の生乳の道外移出が予定されているが、残暑や台風等の不安要素も想定されるため、予断は許されない。

- バター -

農林水産省が発表した2018年7月のバター生産量は4,687トンで前年同月比8.8%増となるも、在庫量は2万6,792トンで同1.4%減となった。輸入バターの在庫量は3,519トンと前年同月比11.0%増となったが、国産品の需要は堅調と思われ、国産品の在庫量は2万3,273トンと同3.1%減となっている。農畜産業振興機構(ALIC)は、8月23日に2,000トンのSBS入札を実施。応札数量は4,600.8トンで競争倍率2.3倍、落札数量は2,000トン全量となった。SBS入札として競争倍率が二倍を超える入札は2016年4月入札以来2年4ヶ月ぶり。売渡結果の落札平均価格は961,241円/トンとなっている。今後9月、10月、11月と連続して入札が実施されるが、今後も二倍を超える需要が集まるのか、動向に注視したい。

- 脱脂粉乳 -

農林水産省が発表した2018年7月の脱脂粉乳生産量は8,650トンで前年同月比0.5%減。在庫量は6万6,856トンで同23.1%増。2018年初から、月末在庫量は前年同月比を大幅に上回る状態が続いている。ALICは8月30日に6,000トンのSBS入札を実施。応札数量は4,366.6トンで競争倍率は0.73倍、落札数量は3,148.6トンと低調な結果に終わった。事前の見通しの通り、現状在庫過多と捉える需要者が多く、積極的な応札が行われなかったものと考えられる。1月及び5月の農林水産省の公表では、平成30年度、総量2万7,000トンを隔月の入札により輸入していく方針となっているが、同省の9月の輸入判断でも同様の方針となるか注目される。



生乳生産量(2018(平成 30)年 7 月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
平成 30 年度	616	350	26	262	4.2
前年同月比	101.00%	101.20%	103.20%	100.80%	101.40%

2018(平成 30)年度、バター(民間)の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	16,613	99.1%	18,791	120.3%	26,500	97.0%	4.1
第 2 四半期	12,787	101.5%	14,187	92.3%	28,300	104.6%	4.4
第 3 四半期	12,400	92.2%	20,600	75.8%	23,300	106.2%	3.6
第 4 四半期	17,200	99.6%	17,500	92.4%	26,200	102.8%	4.1
合計	59,000	98.2%	71,078	92.2%	26,200	102.8%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成 30)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	32,103	98.3%	23,219	63.4%	66,900	124.6%	5.4
第 2 四半期	24,850	98.3%	40,950	114.1%	58,700	110.6%	4.7
第 3 四半期	27,900	92.2%	36,900	120.0%	57,600	102.7%	4.6
第 4 四半期	33,300	99.7%	35,400	78.0%	63,400	126.5%	5.1
合計	118,153	97.2%	136,469	91.8%	63,400	126.5%	5.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<今野>

<主要生産国の現行乳価>

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥97.37/リットル	2018 年 5 月	¥94.44/kg※2
ドイツ	¥43.30/リットル	2018 年 6 月	EUR32.56/100kg
オランダ	¥45.55/リットル	2018 年 6 月	EUR34.25/100kg
アイルランド	¥41.46/リットル	2018 年 5 月	EUR31.17/100kg
米国	¥41.12/リットル	2018 年 6 月	USD16.30/100 ポンド (100 ポンド=45.3592kg)
豪州	¥36.01~36.64/リットル	2018/19 年度	AUD5.75~5.85/100kg MS(乳固形kgあたり)※3
NZ	¥38.62/リットル	2018/19 年度	NZD6.75/kg MS(乳固形 kg あたり)

※1 生乳 1 リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は 1.031 で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 オープニング乳価平均

※4 為替レート EUR=¥129.00 USD=¥111.00 AUD=¥81.00 NZD=¥74.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 HP EU:European Commission HP 米国:CLAL HP 豪州:当社調べ NZ:Fonterra HP

<オセアニア情報>

- Bega社Koroit工場始動 -

8月17日、Bega社は、先日買収した旧MGC社Koroit工場の運営権を全て引き継いだ事を発表した。既存の契約及び製品在庫なども全て引き継いだ模様で、今後Bega社としての供給が始まる。それ以降についてはBega社にとって最も採算の高い乳原料を製造していく事になると思われる。現時点ではフォローアップミルク(粉ミルク)のベースパウダーとスーパー向けの小売りバター製品の製造は継続する模様。ドライヤー4基がある中で1基はフォローアップミルクの製造に使用されると思われ、残りの3基を使ってどのような乳原料を製造するのが注目される。Koroit工場は全ての生乳がバクトフュージを通過する造りになっている為、菌数規格の厳しい製品を製造することが可能である。菌数規格の厳しい脱脂粉乳と、MPC85は製造継続と予想される。豪州内で製造者が減少してしまった全粉乳の製造を期待する声は大きい。向こう1ヵ月程度で製造品目の絞り込みは完了すると思われる。

また、Koroit工場の従業員及び近隣のコミュニティがBega社参入を大きく歓迎している様子が報道されている。100万トン規模の工場であるにも関わらず、この数年間で集乳量は30万トンまで落ち込んでいた。Koroitエリアに強力な乳業会社に戻ってくる事が期待されていた中で、現在急成長中で業界内でも評判の良いBegaという豪州大手乳業会社に経営が移る事は喜ばしい事であり、Bega社としても今後集乳量を伸ばしていく為に積極的な乳価提示を行っていくと思われ、酪農家及びKoroit従業員は安定した環境が担保されると期待している。課題を挙げるとすれば旧MGC社からFonterra社に流れていった酪農家の再獲得と思われる。しかしながら、豪州国内の酪農家からのFonterra社評価は非常に低く、今後Bega社Koroit工場に酪農家に戻ってくる可能性は十分に考えられる。今後のKoroit工場の動向が注視される。

- 豪州東部の干ばつ -

豪州の東部に位置するニューサウスウェールズ州(NSW州)とクイーンズランド州(QLD州)の干ばつが深刻化している。同地域の農家では干ばつが長期化している事で牛の飼料の入手が困難になっており、干ばつ地域では家畜のえさに出来るものが全くない状況とも報道されている。8月下旬には西オーストラリア州(WA州)から大量の穀物を輸入する措置が取られている。一方で、豪州生乳生産量の65%以上を占める酪農主要地域であるビクトリア州(VIC州)では、平年より雨は若干少ないものの、地域によっては潤沢な雨に恵まれているところもあり、同地域における生乳生産量、及び乳製品供給への影響は現在までのところ非常に限定的だと思われる。

- 豪州ビクトリア(VIC)州の降雨量 2018年8月28日現在 (mm) -

	8月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	28.6	58.8	48.1	-40.5%
Warmambool (西部)	100.6	102.0	94.2	+6.8%
Bairnsdale (東部)	16.4	30.0	47.4	-65.4%
Albury (北東部)	52.4	96.0	67.0	-21.8%
Melbourne	41.2	53.8	57.0	-27.7%

- ニュージーランド(NZ)主要都市の降雨量 2018年7月 (mm) -

	7月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	153.3	146.9	122.3	+25.3%
Taranaki (北島)	163.6	160.8	132.0	+23.9%
North Canterbury (南島)	24.0	159.2	60.0	-60.0%
Southland (南島)	97.0	88.3	73.0	+32.9%

- 豪州品目別生産状況 -

単位:トン

	2018年6月(前年同月比)	2017年7月～累計(前年同時期比)
バター	4,930 (+27.6%)	59,471 (-8.3%)
バターオイル	525 (-6.0%)	10,424 (-10.9%)
CHEDAR	16,333 (+22.3%)	190,926 (-14.0%)
その他チーズ	511 (+7.4%)	6,885 (-21.0%)
脱脂粉乳	23,055 (-7.4%)	359,512 (+9.0%)
全粉乳	5,767 (+31.4%)	82,499 (+30.2%)
ホエイ、WPC	3,357 (-12.7%)	49,469 (-1.5%)

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd 松本>

<欧州情報>

- 天候情報 -

EU委員会は8月27日、JRC MARS 公報を発表し、7月1日から8月20日までの日平均気温・降雨量・水収支についてまとめている。

(JRC = the Joint Research Center, 科学的調査を実施する欧州委員会の機関)

(MARS = Monitoring Agricultural ResourceS, 農産資源の観察記録)

・日平均気温

欧州のほぼ全域で例年より暑い気候が続いた。日平均気温は 0.5～4℃高い地域が多く、スペイン・イタリア・フィンランド南部を結ぶ三角地帯の多くの地域では最高気温が 30℃を超えた日が 5～25 日記録された。

・降雨量

ドイツ・フランス北東・英国・アイルランド・ベネルクス諸国・中央ヨーロッパ諸国の大部分など多くの地域で例年よりも乾燥した気候が続いた。降雨量は主にこれらの地域で例年対比 30～100mm 減を記録した。

・水収支

5月上旬以降、北海・バルト海・中央ヨーロッパ北部・ロシア中央及び南部の一部において水収支は大きくマイナスとなった。長期に亘る水不足により穀物生産や牧草の生育不調を引き起こしたばかりでなく、貯水池・川・湖の水位や地下水面を引き下げた。

一方で、欧州のほとんど全域で8月中旬以降、約2ヶ月ぶりとなるまとまった降雨があり、また気温も例年並みまで落ち着いてきた。長らく続いた雨不足と熱波による穀物収穫量減や牧草の生育不良、それに伴う今後飼料不足と懸念はあるものの、暑さによる乳牛のストレスが軽減されたことで乳生産の見通しが少し明るくなったと関係者の安堵する声が聞かれ始めた。

<アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V.吉田>

<米国駐在員情報>

- 米国、中国の貿易戦争激化 -

米国と中国の貿易戦争が激化している。2018年8月8日、米ドル160億(約1兆7,760億円)分と予想されている追加輸入関税の一覧を双方共に発表した。既の実施されている370億米ドル(約4兆1,070億円)の追加関税に上乘せする形となる。今回の追加関税(160億米ドル)は2018年8月23日より適用され、年内にはさらなる追加関税を発表すると見られている。今回の追加関税発表に関して、最初に動いたのは米国で、中国は直ちに報復戦略として米国と同等の関税を発表した。1回目の追加関税では(2018年7月6日)、乳製品や他の農産物に対して焦点を当てていた。2回目の追加関税(今回)では、工業製品(半導体、化学製品など)を重視した内容となっている。貿易戦争が拡大し続けた場合、中国は高タンパクホエイ派生商品、乳糖および育児粉乳などの乳製品に、さらなる追加関税を課す準備ができていると発表した。

乳製品は米国にとって重要な輸出品目であり、追加関税は貿易促進を妨げ、何百万ドルもの影響を米国乳製品市場に影響を与えることになる。追加関税により米国から中国への乳製品輸出量も鈍化すると見込まれており、市場や相場に与える影響が懸念される。

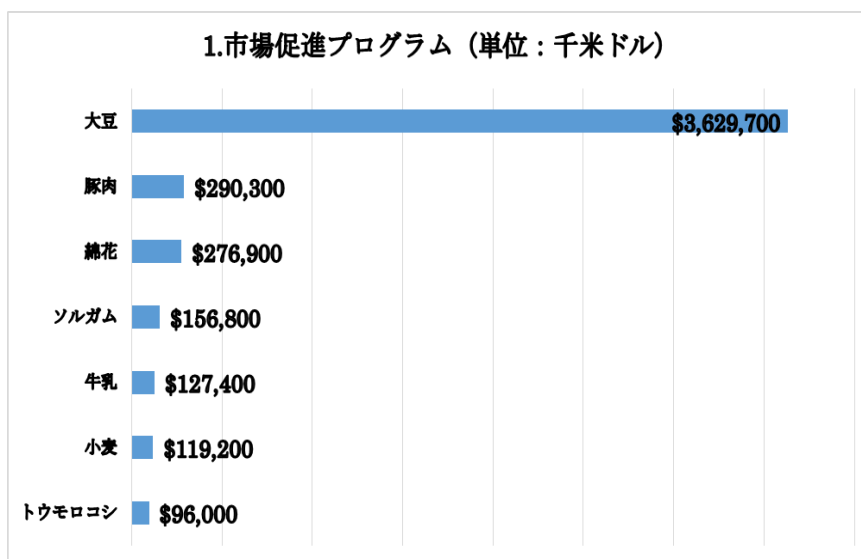
- 米国政権、国内農家に120億ドルの支援を発表 -

トランプ政権は2018年7月24日、米国農家に対して最大120億米ドル(約1兆3,320億円)の支援を行うと発表。中国、カナダ、メキシコによる報復関税で生じる貿易摩擦による影響から農家を保護するのが目的。この支援は、USDA(米国農務省)管轄の商品金融公社(CCC:Commodity Credit Corporation)を通じて運営され、議会の承認を必要としないことから「トランプ政権の独断的支援だ」と批判の声も上がっている。米国政府は、米国農家を支援するために3つの政策機軸を発表した。

- ① 商品金融公社(CCC)が法的権限を持ち、農家サービス局(Farm Service Agency)が管理する市場促進プログラム(Market Facilitation Program =MFP)。

予算: 46億9,600万米ドル(約5,212億円)

市場促進プログラム予算の配分は大豆農家に36億2,900万米ドル(約4,028億円)と偏っており、牛乳に対しては5番目に多い約1億2,740万米ドル(約141億円)となっている。1酪農家あたり、12¢(米セント)/cw支払われる模様。



<参照:USDA>

② 農業市場局(Agricultural Marketing Service)が管理する食品購入と流通プログラム(Food Purchase and Distribution Program =FPDP)。

予算:14億1,300万米ドル(約1,568億円)

乳製品に対しては8,490万米ドル(約94億円)が割り当てられ、現時点では対象乳製品をチェダーチーズ、バターとしている。上位5品目として、豚肉(55万8,800千米ドル)、リンゴ(9万3,400千米ドル)、ピスタチオ(8万5,200千米ドル)、乳製品(8万4,900千米ドル)、オレンジ(5万5,600千米ドル)となっている。

③ ①の市場促進プログラムと同じく商品金融公社(CCC)が権限を持ち、海外農業局(Foreign Agricultural Service=FAS)が管理する貿易促進プログラム(Agricultural Trade Promotion Program=ATPP)。

予算:2億米ドル(約220億円)

①市場促進プログラム-大豆、ソルガム、トウモロコシ、小麦、綿花、牛乳、および豚の生産者へ段階的に資金援助②食品購入と流通プログラム-果物、ナッツ、米、豆類、牛肉、豚肉および牛乳など、報復関税によって在庫が積みあがってしまった場合、それを政府が購入してフードバンクや他の栄養支援プログラムへ配布③貿易促進プログラム-海外農業局(FAS:Foreign Agriculture Service)を通じて、新しい輸出市場の発展を支援、という内容である。

2018年8月27日、USDAは具体的な支援申請方法、対象製品を公表。一部業界紙では、今回の支援内容について、「包括的に農家を支援できる内容となっているが、メキシコとの二国間貿易協定の方が米国農家にとって魅力的である」と述べている。

- 7月の主要23州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表によると、7月の主要23州の生乳生産量は785万4,200トンで、前年同月比0.4%増となった。先月発表の6月の生乳生産量は、前年同月比1.6%増の780万8,800トンへ上方修正された。

主要23州における7月の一頭当たりの平均搾乳量は、約899キロで前年同月を約3.6キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来、7月単月の数字としては過去最高となった。

主要23州における7月の平均乳牛頭数は874万頭と発表され、前年同月比1,000頭増、前月比8,000頭減。

- 2018年7月主要州別生乳生産量(前年同月比) -

カルフォルニア州	1,492,752トン	-2.5%	(-38,136トン)
ウィスコンシン州	1,188,572トン	+1.2%	(+13,620トン)
ニューヨーク州	582,936トン	+0.6%	(+3,632トン)
アイダホ州	593,832トン	+0.8%	(+4,540トン)
テキサス州	499,400トン	+7.3%	(+34,050トン)
ミシガン州	433,116トン	-0.9%	(-4,086トン)
ペンシルバニア州	409,508トン	-0.7%	(-2,724トン)
ミネソタ州	380,452トン	-0.2%	(-908トン)
ニューメキシコ州	317,800トン	-0.8%	(-2,724トン)
ワシントン州	262,866トン	+1.8%	(+4,540トン)

- 2018年6月米国産主要乳製品生産量 -

バター	65,215トン	前年同月比	+3.1%	前月比	-14.7%
チーズ	483,223トン	前年同月比	+1.8%	前月比	-1.9%
（うちアメリカンチーズタイプ）	195,457トン	前年同月比	+2.7%	前月比	-2.9%
（うちイタリアンチーズタイプ）	204,145トン	前年同月比	-0.1%	前月比	-1.8%
NFDM(食用)	67,277トン	前年同月比	-9.0%	前月比	-7.3%
SMP	26,762トン	前年同月比	+49.2%	前月比	+17.0%
ホエイパウダー	39,686トン	前年同月比	-0.7%	前月比	+2.2%
WPC	18,093トン	前年同月比	-1.1%	前月比	-4.8%
乳糖(食用、餌用)	41,434トン	前年同月比	-5.0%	前月比	-1.4%

- 2018年6月末米国産主要乳製品在庫量 -

バター	152,728トン	前年同月比	+8.0%	前月比	-1.0%
チーズ	632,210トン	前年同月比	+6.0%	前月比	+1.0%
（うちアメリカンチーズタイプ）	363,372トン	前年同月比	-1.0%	前月比	+3.0%
NFDM(食用)	137,065トン	前年同月比	+1.4%	前月比	+11.5%
ホエイパウダー	33,409トン	前年同月比	-13.1%	前月比	+7.4%
WPC	29,262トン	前年同月比	-6.2%	前月比	-8.8%
乳糖(食用、餌用)	46,315トン	前年同月比	-25.8%	前月比	-3.3%

- 2018年7月末バター、チーズ在庫量 -

バター	144,393トン	前年同月比	+3.0%	前月比	-6.0%
チーズ	642,073トン	前年同月比	+3.0%	前月比	+2.0%
（うちアメリカンチーズタイプ）	374,379トン	前年同月比	-1.0%	前月比	+3.0%

(為替レート USD=¥111.00を使用)

<ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤、高野>

出典：
AGRA EUROPE 各誌
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weekly Times
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。